

平成25年度 妙高市（生活科）・総合的学習部 活動報告

部長 春日 良樹

1 研究主題 地域に根差した生活科・総合的な学習の時間の充実

- 学校（学級）カリキュラムの生成→教科・領域間の関連の強化、合科的指導の推進
- 総合、生活科の授業の充実→子供相互の学び合いや表現活動等の充実
- 5年米こめサミットの一層の充実→学習の質を高める（各校総合的学習のモデル）

<妙高市教研では、「生活科・総合的学習部」として小・中学校合同で活動している>

2 研究の概要

- 総会、教科・領域部会 年度の事業計画・学校支援システムの活用 4月11日(木)
- 米こめサミット説明会 市教委・教育長講話 7月10日(水)
- 夏の一斉研修 教科研究員解説、部長講話 8月22日(木)
- 秋の一斉研修 生活科授業公開・上教大木村教授講演 11月7日(木)
- 第5回妙高っ子「米こめサミット」開催、ポスター作成・配布 11月20日(水)

3 研究の実際

○ 学校支援システムの活用

市内の全小・中学校、特別支援学校の年間カリキュラムを学年別に閲覧できるように、「生活科・総合的学習フォルダ」を設定した。また、各校の生活や総合、生活単元の指導案、実践報告等を掲載し、学校間の合同授業や自校のカリキュラム構想に活用できるようにした。

○ 授業（活動）の充実

匠の授業に学ぶ研修会、4年「斐太の川を考えよう！」斐太北小の小池裕子教諭の授業。本実践では、総合的学習を核に、道徳、各教科、学校行事等との関連を強化し、各教科・領域での学びが総合の授業で統合されるようカリキュラムを編成。さらに、子供に「学びのノート」を持たせ、興味・関心に応じた「一人学び（独自学習）」が、学校・家庭生活に広がるよう指導・助言し、個々の子供の追究を日常化（生活化）する。そして、こうした学びも本時授業（相互学習）に取り込み、独自学習－相互学習を繰り返しながら、その子の追究を年間を通して支える。意欲・論理性・思考力・行動力等が徹底して鍛えられていくため、本校の子供の「学力」は極めて高い。

各校の実践では、「地場産品や華麗米（か）の消費拡大策を料理レシピで提案する」新井小（5年）や「商店街の活性化に挑戦する」新井北小（6年）のように、社会貢献や地域振興に結ぶ取組が多くなった。妙高市の現実に対峙させ、「地域から何を学ぶか」といった視点から「地域のために何ができるか」を問う、「志」や「起業精神」の涵養を目指す教育へと発想の転換が求められている。

米こめサミットでは、各校の実践や発表の質が格段に高まった。学校間で合同授業を進めたり、サミット自体を自校のカリキュラムの一環として取り込む学校が増えたためである。また、妙高小や妙高高原南小の発表では、地域の篤農家から「実際に使える科学的なデータで参考になる」「高原米という寒冷地品種があることをはじめて知った」「会の開催を広く農業関係者、市民に知らせて欲しい。子供から元気をもらった」という賞賛の声を聞いている。

4 課題

総合的学習における子供の学びの質は、担任の経験や課題意識の有り様に大きく影響される。学校間の合同授業や協同のカリキュラム開発を進め、単元・活動の構想力や授業力を一層鍛える必要がある。また、本市の総合は、「ふるさと」学習的要素が強いことから、教師による地域の「人・もの・こと」へのフィールドワークを一層進め、同時代を生きる者としての当事者意識を養う必要がある。「教師は野に出て学べ」である。